

第14回 市長対談

スイスとの経済交流を通じて



駐日スイス特命全権大使
ウルス・ブーヘルさん

津市長前葉 泰幸

2月10日、ウルス・ブーヘル駐日スイス特命全権大使をお迎えし、スイスと津市の経済交流について、前葉泰幸市長がお話を伺いました。対談は英語で行われましたが日本語訳でお届けします。

市長 ようこそ、津市へお越しくださいました。津市の第一印象はいかがですか。

大使 普段は東京に住んでいますので、自然の風景をほとんど目にすることがありませんが、津市は豊かな自然に囲まれ、景色も素晴らしく、何よりも印象深いのは、この津の海岸線ですね。

市長 ありがとうございます。さて、今日は津市の経済の活性化についてお話をお伺いしたいと思います。

大使 スイスと日本は150年前に修好通商条約を結んで以来、親密な友好関係が続けられ、経済的にもとても緊密な関係を保っています。日本に進出しているスイスの企業では7万5,000人以上の雇用を創出し、さらには多彩な文化の交流も行われています。



市長 2009年2月、スイスの研究機関であるC.S.E.M.(※)と、津市をはじめとする県内の自治体、関係機関との合計5者間で、今後の産業協力についての合意が取り交わされました。この合意も、スイスと日本との長きにわたる信頼関係があったからこそ可能になったのですね。

※C.S.E.M.(Swiss Center for Electronics and Microtechnology)

大使 お互いの強い信頼があった成果だと思います。スイスにはいくつかの世界規模の大きな企業がありますが、実は中小企業の努力によって築かれていて、政府は中小企業の発展のための環境づくりが大切であると提案し続けていますし、中小企業同士が共に協力しあうことができる指導力を持つことが何よりも大切だと思っています。

市長 特殊な技術を持つスイスと日本、相互の中小企業が連携し、一緒になって市場を拡大していくための橋渡しをすることは地方自治体にとって、とても大切な責務であると考え、2012年11月にスイスのO.P.I.(ジュネーブ州産業振興機構)と津市は、中小企業を支援するための協定に合意しました。